

環境に関わる責任

環境負荷の低減

基本的な方針

📖 →P71 日本製紙グループ環境憲章

推進体制

「環境経営」の推進体制 →P06をご参照ください。

目標と実績

取り組むテーマ	目標	2025年度の主な実績
環境負荷の低減	製造工程で発生する環境負荷の削減 <ul style="list-style-type: none"> 2018年度比で、大気汚染物質 15%削減、水質汚濁物質 15%削減 国内生産拠点における産業廃棄物の最終処分量 2%以下 	<ul style="list-style-type: none"> 国内生産拠点における削減率(2018年度比) SO_x 49%、NO_x 25%、ばいじん 25%、COD/BOD 32%、SS 24% 産業廃棄物の最終処分量 1.6%

取り組み

水資源の管理

詳細は自然資本統合レポートをご覧ください。

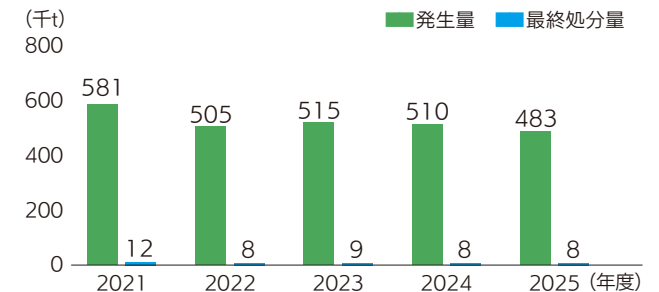
📄 →WEB 水資源におけるリスクと機会(日本製紙グループ自然資本統合レポート2026 P.43-46)
https://www.nipponpapergroup.com/csr/npg_Ncr2026_43-46.pdf

廃棄物の削減

廃棄物の再資源化

当社グループは、埋め立てなどによる産業廃棄物の最終処分量を減らすため、生産プロセスの見直しやボイラー燃焼灰を土木用資材などに有効利用する取り組みを進めています。

廃棄物の発生・最終処分量の推移(国内)



化学物質の管理

- 当社グループは、「日本製紙グループ化学物質ガイドライン」にのっとり、製品の製造工程で使用する化学物質を社内で審査し、その使用量と環境への排出・移動量を監視するリスク管理を実施しています。また、必要に応じて是正措置を講じます。
- 各工場・事業所で開催するリスクコミュニケーション →P10では、PRTR制度対象化学物質の排出・移動量を地域のステークホルダーに開示しています。

環境負荷の低減

PRTR制度対象化学物質の排出量・移動量の一覧^{※1} (2025年度)

物質名	排出	移動	全排出・移動
亜鉛の水溶性化合物	300.0	0.0	300.0
アクリルアミド	9.8	0.0	9.8
アクリル酸及びその水溶性塩	14.9	0.0	14.9
EPN	700.0	0.0	700.0
エチルベンゼン	0.2	0.0	0.2
エチレングリコールモノエチルエーテル	550.0	5,700.0	6,250.0
キシレン	172.5	0.0	172.5
グルタルアルデヒド	21.7	1.8	23.5
クロロホルム	47,268.6	23,843.7	71,112.3
四塩化炭素	0.0	48,384.0	48,384.0
シクロヘキシルアミン	700.0	0.0	700.0
塩化メチレン	8,800.0	0.0	8,800.0
N,N-ジメチルアセトアミド	19.0	181.2	200.2
N,N-ジメチルホルムアミド	110.0	460.0	570.0
水銀及びその化合物	7.9	0.0	7.9
ダイオキシン類 ^{※2}	466.3	4,746.3	5,212.6
チオりん酸O,O-ジメチル-O-(3-メチル-4-ニトロフェニル)	12.4	0.0	12.4
銅水溶性塩(錯塩を除く。)	2.8	0.0	2.8
トルエン	25,569.2	160,833.0	186,402.2
ナフタレン	0.4	0.0	0.4
二硫化炭素	5,345.0	0.0	5,345.0
砒素及びその無機化合物	0.4	0.0	0.4
ふっ化水素及びその水溶性塩	7,108.7	0.0	7,108.7
ヘキサン	0.8	0.0	0.8
ベンゼン	0.1	0.0	0.1

物質名	排出	移動	全排出・移動
ほう素化合物	20,529.8	0.0	20,529.8
PCB	0.0	12,142.4	12,142.4
ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル	1,519.4	0.0	1,519.4
ホルムアルデヒド	470.9	0.0	470.9
マンガン及びその化合物	2,590.8	0.0	2,590.8
メタクリル酸	1.9	0.0	1.9
メタクリル酸メチル	21.1	0.0	21.1
メチルナフタレン	823.7	0.0	823.7
1,3-ジクロロ-2-プロパノール	2,000.4	0.0	2,000.4
メチル=ベンゾイミダゾール-2-イルカルバマート	1,402.2	0.0	1,402.2
アジピン酸と2-(クロロメチル) オキシラン重縮合物	24,402.8	2.0	24,404.8
アルカン-1-アミンのオキシラン重付加物、(Z)-オクタデカ-9-エン-1-アミンのオキシラン重付加物及び-オクタデカ-9, 12-ジエン-1-アミンのオキシラン重付加物の混合物	4,228.0	0.0	4,228.0
アルファ-アルキル-オメガ-ヒドロキシポリ	17.4	0.0	17.4
アルキル(C12~C16) (ベンジル) (ジメチル) アンモニウム塩	639.0	0.0	639.0
エチレングリコールモノブチルエーテル	41.0	350.0	391.0
エチレンジアミン四酢酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩	728.0	0.0	728.0
塩素酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩	3,802.2	0.0	3,802.2
シクロヘキサン	1,217.5	8,041.0	9,258.5
トリメチルベンゼン	146.7	0.0	146.7
ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカンスルホナート並びにこれらの混合物	1,110.0	0.0	1,110.0
ニトリロ三酢酸及びそのナトリウム塩	410.0	0.0	410.0
1-ヒドロキシエタン-1,1-ジイルジホスホン酸	3,393.0	0.0	3,393.0
ヘキサヒドロ-1, 3, 5-トリス-1, 3, 5-トリアジン	128.0	0.0	128.0

環境負荷の低減

PRTR制度対象化学物質の排出量・移動量の一覧^{※1} (2025年度)

物質名	排出	移動	全排出・移動
ヘプタン	0.3	0.0	0.3
メチルイソブチルケトン	290.0	5,100.0	5,390.0
2-(2-メトキシエトキシ)エタノール	9,239.9	0.6	9,240.5
合計 ^{※3} 単位:kg	175,868	265,040	440,908

※1 PRTR制度に基づき、各事業会社が届け出た数値の合計。非意図的に発生したものも含む

※2 単位:mg-TEQ

※3 ダイオキシン類は含まない

土壌汚染・大気汚染の防止

- 当社グループの各工場・事業所で使用する原材料や薬品には、重金属やトリクロロエチレンなどの土壌汚染物質はほとんど含まれていません。
- 当社グループは、2030年度までに2018年度比で大気汚染物質15%削減を目標に掲げて取り組んでいます。
- 当社グループでは、脱硝、脱硫、集塵装置などを導入し、燃料燃焼で発生する硫黄酸化物(SO_x)や窒素酸化物(NO_x)などの大気汚染物質を法令で定められた基準値や自治体と取り決めた協定値以下まで低減させて排出しています。

騒音・振動の防止

当社グループは、IoTを活用した騒音・振動発生[※]の未然防止 [→P33](#)に取り組んでいます。

環境関連データの一元化

当社グループでは、全グループ企業を対象に環境関連データ収集、集計システムを導入しています。水質、大気、廃棄物、化学物質などの環境関連データを一元管理し、グループ内で環境情報の共有・利活用を進めています。